

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 | | | | | |
|----------|-------|---|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | No.6 | 開設当初から玄関ドアと、玄関ドアからフロアに繋がるドア、勝手口などの出入り口全てにオートロックが備わっている。入居者が誤って外に出て行かないようにという設備であるが、これが閉ざされた空間となり、場合によっては拘束に繋がる可能性もある。 | 誤って外に出ていく可能性がある入居者は特に見守りを行い、安全を確保した上で、出来る限りドアの施錠は行わないように努めていく。 | 身体拘束廃止委員会で取り上げ、施錠をする時間帯を設けたり、なるべく施錠をしないケアに取り組んで行くことを、入居者家族に理解してもらう。また、入居者が外に出て帰れなくなった際には地域の協力も得られるよう、普段から地域との繋がりをもつよう心掛けていきたい。 | 6～12ヶ月 |
| 2 | No.36 | 入居されている方に対しての人格を尊重することについて、業務優先になりがちな場合があり、細やかな声掛け、対応がおろそかになることがある。 | 職員主導で業務を行うのではなく、入居者主導であることを、職員個々が意識を持って取り組んでいくこと。 | 「パーソンセンタードケア」や「なぜBPSDが表れるのか」など、入居者の人格・人権に焦点を当てた勉強会を定期的に行う。 | 6～12ヶ月 |
| 3 | No.35 | 最低限の災害セットは備えているが、それぞれに消費期限を記入していないことや、備蓄の一覧表がないことなど、災害に対する危機感が不十分である。 | 職員全員が災害セット保管の場所や備蓄内容を把握し常に災害に備えておく。 | 災害セットの一覧表(消費期限や内容)を作成し、管理者を中心に定期的に職員全員が備蓄内容を確認しておくようにする。 | 6～12ヶ月 |
| 4 | | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。